

# 王希奇「一九四六」東京展



日時

2023年1月12日(木)～15日(日)

午前10時～午後8時 (最終日午後5時まで)

会場

北とぴあ地下展示ホール

東京都北区王子1-11-1 TEL03-5390-1100

交通 JR京浜東北線「王子駅」下車西口出口徒歩1分。

地下鉄南北線「王子駅」5番出口直結。

都電荒川線「王子駅前駅」徒歩5分

入場料

前売り1,000円 (当日1,200円)

(発売中一学生・高校生以下無料)

鑑賞券お申込みは各支部、都連事務局まで

主催 王希奇「一九四六」東京展実行委員会

特別協力 学校法人城西国際大学

後援：東京都教育委員会、日中友好協会本部

協賛：日中文化交流協会、NPO中帰連平和記念館、

満蒙開拓平和記念館、方正友好交流の会、日朝協会東京都連合会

日本ベトナム友好協会東京都連合会、

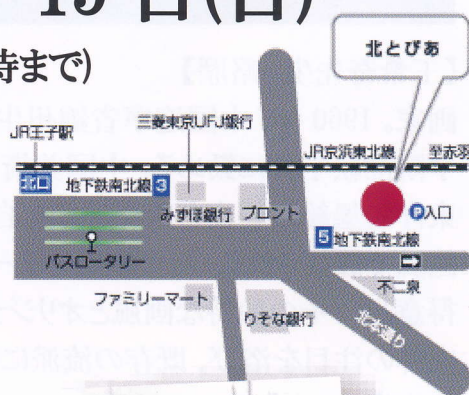
日中友好協会神奈川県連合会、群馬県連合会、さいたま支部、埼玉西部支部、所沢支部、

千葉支部、東葛飾支部、新潟支部

賛同：山田洋次監督、加藤登紀子(歌手)、松井稔監督、撫順の奇跡を受け継ぐ会東京支部

事務局団体 (特定非営利活動法人)日中友好東京文化センター、日中友好協会東京都連合会

03-3261-0433



二度と悲劇を繰り返さないために。涙の孤児引き揚げ。



## 彼らは胸に何を抱き、その目で何を見ているのか・・・

遺骨を抱えた子供・・・ 老人を背負う男性・・・ 負傷者を担架で運ぶ看護婦・・・  
遺影に語りかけ涙をぬぐうしぐさの少年・・・  
ぐったりとした赤子に乳を与えようとする母親・・・

帰還の港にかろうじてたどり着き引き揚げ船へ向かう数百人の人々が  
克明に描かれた3m×20mの大絵画、中国と日本を結ぶ歴史に残る  
超大作をゆっくり歩いてみてほしい



### 山田洋次監督からのメッセージ

満州で少年時代を過ごしていた僕は、日本人が中国人に対して支配者のように振舞っていたことをよく知っています。だから、中国人である王希奇さんという画家が、縦3メートル横20メートルの大作を描いて、あの飢餓の中の日本人の悲惨な引き揚げを描き残すという大きな仕事をされたことに感動します。

東京展のご成功をお祈りいたします。

山田洋次



### 王希奇「一九四六」東京展 開催にあたって

実行委員会

日本敗戦後、旧満州(中国東北部)にいた日本人155万人は、過酷で悲惨な状況におかれていました。翌年5月頃からようやく引き揚げが始まり、葫蘆島港からは105万人が引き揚げてきました。その葫蘆島からの引き揚げの象徴的な写真集の中に「母親の骨箱を抱えた子供」を目にした中国人歴史画家・王希奇は、自らの心の葛藤を乗り越え、「戦争ではいつの時代も弱者が苦しむ。彼らも戦争の犠牲者だ」という強い思いのもとに、油絵と墨絵の融合による独特の技法で引き揚げ船に乗る数百人の姿を描き出しました。巨大な作品からは、作者の強烈な平和への願いが感じられます。埼玉・群馬、東京など関東一円からも満蒙開拓団や青少年義勇軍が渡満し、多数が犠牲になっています。世界平和が危機にある今日、開催には大きな意義があると考えています。



### 【王希奇先生 略歴】

画家。1960年、中国遼寧省錦州生まれ。魯迅美術学院油絵学部勤める。中国美術協会会員。東洋的墨絵の要素を西洋油絵に自然に融合させた画風で評価される。特に歴史をテーマとする創作を得意とし、その独特な画風とオリジナルな視点で国内外の注目を浴び、既存の流派に属さない独立した芸術家と評される。

代表作に国家金メダル賞を獲得した《三国志・赤壁の戦い》(合作)、中国国家重大歴史題材美術創作プロジェクト入選作品《長征》、《遼瀋戦役 攻克錦州》(合作)、および《官渡の戦い》などの大型絵画がある。油絵のほか、墨絵の《回声》、《高原人》、《雷に聴く》も全国美術作品展に入選。

数多くの作品が中国美術館、中国国家歴史博物館、中国国家軍事博物館などに収蔵されている。

近年では、2012年から17年にかけて、葫蘆島港から105万人の残留日本人の大送還をテーマとした大作《一九四六》(縦3m横20m)をはじめ、関連するシリーズ作品計50点を制作した。